

学会からのメッセージ プラスチック雑感

容器包装リサイクル法が制定されたときやダイオキシン類問題、温室効果ガス削減の第一約束期間など、プラスチック廃棄物が大きく取り上げられることは幾度となくありましたが、今回は高校生、一般市民の関心も以前にも増して高いことを感じています。

今までも3Rの原則であるリデュース（流入・生産量自体を減少させる）が重要であることが主張されてきましたが、どちらかというところ、対策はリサイクルあるいはそのエネルギー利用に主眼が置かれていました。ところが今回は、根本的にプラスチックの存在自体が問われている構図となっています。つまり、プラスチック自体が悪いものではないのは皆わかっていることで、その使い方、われわれの生活様式の有りよう、モラルが問われています。私も鞆の中にはエコバッグを入れていますが、コンビニではなかなか準備が追いつかなく、先に商品をレジ袋に入れてしまわれてしまうことが多々あります。現時点では3勝7敗くらいで負け越しています。まだまだです。多くの物質や製品には良い面と悪い面があり、その

リスクとベネフィットを天秤にかけて使用されています。よく考えなければならないのは、プラスチックを別のもので代替した際に全体としての環境負荷（環境への散逸も含め）が下がるのかどうか、トレードオフの関係になっていないのかも気をつけなければなりません。またその関係が現在で成立したとしても、将来においても成立するのかどうかにも配慮せねばなりません。多くのことを考える必要があり、今後の調査や研究が自然科学だけでなく、社会科学としても期待されます。

（一社）廃棄物資源循環学会 編集委員長 たかおか まさき 高岡 昌輝